

心臓リハビリテーション 現場で役立つTips

伊東 春樹 監
(榊原記念病院副院長)
ジャパンハートクラブ 編



B5判
240頁
定価 5,040円
ISBN 978-4-521-73029-5

中山書店
☎03-3813-1100

書評

心臓リハビリテーションにかかわるあらゆるスタッフに有用な書

谷口 興一・群馬県立心臓血管センター名誉院長

オランダの Willem Einthoven と並んで、心電計の開発者として有名なロンドンの医師、Thomas Lewis (1881~1945年)

は、彼が1933年に出版した著書「Diseases of the Heart」の中で、「急性心筋梗塞は発症後2週間の絶対安静が必要である」と述べている。

この概念は、その後、30年有餘

年にわたって、あたかも心臓臨床のバイブルのごとく信奉されてきた。

されてきたのである。本邦における心臓リハビリテーションは、欧米に比べて20年遅れていると言われている。しかし、近年、心臓リハビリテーションの有用性が認められ、臨床応用が実に応用など、一歩一歩と進んでいる感がある。

界保健機関)による心臓リハビリテーションの定義が示されてから、欧米諸国においては、心臓リハビリテーションが臨床の現場に著実に根を下ろし、臨床効果、QOL や予後の改善に関するEBMが示

されている。本書は、「心臓リハビリテーション 現場で役立つTips」と題し

て、ジャパンハートクラブの長山雅俊、牧田 茂の両医師によって編集され、「心臓リハビリテーション 知っておくべきTips」に続く書として上梓されたものである。本書の特徴は、施設やスタッフ運営、運動療法、栄養指導、生活指導、患者支援、薬剤服用などの包括的な心臓リハビリテーションに関するそれぞれの内容が、現場において活用できる実践的なTipsの集大成となっており、それぞれの現場スタッフが抱く疑問に答えるという形式、すなわち、Q & A形式で明快にまとめられている。

内容は、豊富な図表や画像が適切に用いられており、一見して明瞭であり、どの職種の人々にも理解できる書である。